

奨励賞

中小企業区分

## 株式会社みやま

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	長野県茅野市ちの 176 番地 5
業種	製造業
社員数	65 名
受賞歴	2017 奨励賞
ウェブサイト	<a href="http://www.miyama-gr.co.jp/company/">http://www.miyama-gr.co.jp/company/</a>

### 環境保護活動を方針管理に組み入れての全社的活動の発展

#### 取組の目的

当社では、本来業務の効率を高める事によって CO<sub>2</sub> 排出量を低減できるとの考えの下、環境改善活動を行うにあたり本来業務の改善に重点を置いて取り組んでいる。

当社はスーパーエンブラの一種である PSS 樹脂による部品製造を主力としている。PSS は耐熱性とコストパフォーマンスに優れ、自動車のエンジン廻りの金属部品の代替素材の筆頭候補と言われており、自動車の軽量化⇒燃費向上が期待され、CO<sub>2</sub> の排出削減にも貢献するものである。当社はこの PSS 素材を用いたプラスチック射出メーカーの先駆けとして、今後も技術の一層の向上に努め環境改善に貢献する為にも世に広めるべく、事業活動を行いたいと考えている。

こうした背景の中、当社では経営管理の手法として方針管理制度を採用しているが、毎期の社長方針には必ず CO<sub>2</sub> の削減を掲げ、その TOP の方針に対して各階層がそれを具体的にブレークダウンした自部門方針を展開する事となっている。その為、CO<sub>2</sub> の削減という管理項目は売上高目標やコスト管理と並ぶ重要な達成目標に位置づけられている。

この管理項目は社員個々人の目標にまで落とし込まれ、各個人はこの目標に対して PDCA を使って毎月のフォローアップを行っている。

その為、当社の社員は日々の問題に対しては意識せずとも PDCA を使って改善策を考える習慣が出来ており、教育という面からも効果を発揮している。

また他方で、当社では社内での 5S 活動やカイゼン活動を通して社員の環境意識を高める事を重要な教育の柱としており、「自ら考え行動する社員」を育成するべく、教育を行っている。

1. 5S 活動は社長も例外でなく、全社員が毎日 10 分間の整理・整頓・清掃・清潔作業を行い、職場環境の向上のみならず、コストダウンにもつなげている。5S 委員会は全社員を 8 つのチームに分け、各チームリーダーは交代で行う事にして、責任感とリーダーシップを出来るだけ多くの社員が身に付ける様にしている。

## 「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

2. 5Sについては地域の他社とも頻繁な情報交換を行い、改善策を出し合いながら互いに刺激し合っている。委員会のメンバーにとっては 他社事例の学習や、異業種との交流などで、絶好の学習の機会となっている。また、会社近隣の川や道路等の清掃などの地域活動にも積極的に参加し、地域の環境の維持に努めている。

### 取組の実績

◆会社全体としての方針として、直近1年間の 5S 活動では「社内のグリーン化」を重点項目として取り組んだ。具体的な事例としては、会社正門脇に花壇の整備を行い、道行く人に喜んでいただける様に日々の手入れを欠かさずに行った。また、雑草で荒れ放題になっていた中庭を整備し、芝生を植え、花壇を作ったことで応接室へご案内するお客様からは一様に好評をいただいた。また例年同様にグリーンカーテンを実施し、夏の暑さを防ぐ一助とした。

◆直近1年間に会社施設のいくつかで老朽化対策として改修工事を行った。その際はそれまで旧式の蛍光灯であった所を省エネ型のLED 照明に交換した。交換の総本数は20箇所に上り、40本の蛍光灯をLED とする事で、計算上は年換算で 576 / kWh・CO<sub>2</sub> は 0.3 t(いずれも概算)の節減につながった。予算との兼ね合いもあり、一気にとは行かないが、照明のLED への切替えは今後も毎年度継続的に行って行く予定である。

### 環境活動への取り組み

#### 5Sと改善活動

今期の5Sプロジェクトチームは「1 STEP UP」。「一歩一歩の積み重ねで5Sの輪を拡げていこう！」をスローガンに、社員全員で5S活動に取り組みました。



デコボコだった通路を平らに補修



異業種交流会での意見交換



小・中学校社会科見学受け入れ



KAIZEN-SUWA  
改善研修会での事例発表



改善活動推進キャラクター「カイゼンガえる」

#### 社内美化活動



### 環境活動への取組例

## 成果・課題

◆前述の通り、当社では 5S と連動した環境改善活動は方針管理に基づいた全社的な取り組みであり、かつ主要業務となっている。環境の改善は事業の利益に直結する重要な要素であるという認識を全社員で共有し、日々実行している。

◆「取組の実績」に記載の LED への切り替えは環境活動が単に社会貢献に留まるのではなく、実際に会社の利益にも貢献するものであるという事を社員には日頃から教育しており、当社社員はそれをきちんと認識出来ていると確信する。

◆当社では既に 5S と「カイゼン」は社内改革の活動として定着したと言える。「カイゼン」については審査を行い、表彰制度を採用している。社員はこれら「カイゼン」を自らの役割であると当然の如く捉え、社内改善の効果を上げる事に喜びを感じている。この点は教育的な観点からも喜ばしい事と思っている。



LED への切り替え例

## 今後の改善

◆当社の直近決算年度における製品売上高は前年度を 8.1 %上回る好成績を残す事が出来た。当然であるが機械の稼働時間も増加した結果、“総使用電力”では 3.1 %増加した。しかし売上高百万円単位での単位当り使用量は逆に 4.4 %の減少となった。これは日々の活動の効果と考えられる。今後もこれに甘んずる事なく、売上高の増加を吸収できる程の節減対策を行う事でも一層の環境改善と経営改善につなげて行きたい。

◆当社の社屋自体は築 50 年以上の古いものであるが、5S 活動により整理・整頓・清掃を徹底し、また花壇や植物を配置する事で、来訪されるお客様にもきれいな社屋だと好評をいただいている。

## 関連補足情報

第 55 期環境経営レポート

<http://ea21.jp/list/pdf/0007191.pdf>

### 審査委員会からの講評

評価ポイントとして、経営管理に毎期社長方針に必ず CO<sub>2</sub>の削減を掲げ、それをブレークダウンした目標を各部門、各個人の目標まで落とし込んだことで、自然に教育の目的を達成できる。また 5S 活動を中心とした全社員向けの人材育成も展開している。「社内グリーン化」という花壇の整備もその流れで実施し、道行く人にも良い影響を与える。

さらに、会社施設の改修をして LED 化を進めているため、社員に環境の改善と事業の利益に直結する重要な要素として社員に認識の共有をしている。同社の取組は、企業とその社員が核となって、地域社会に好影響を与える良いケースになるだろう。今後、独自の環境活動を通じた人材育成を継続・進化されていくことに期待したい。